



住吉グループ 住吉工業 山口県下関市

住吉グループの住吉工業（山口県下関市）は2016年に創業60周年を迎えた。創業以来、土木工事や砕石製造販売、運輸運送などインフラ建設事業を通じて快適な生活環境を提供し続ける。

60周年記念として技術職の作業ユニフォームを刷新、昨年には10年ぶりに事務職の女性社員の制服を復活させた。新ユニフォームが全社員の士気を高め、地域創生をリードする企業としてさらなる発展を目指す。

県内トップの土木建設企業

会社名の「住吉」は、「日本三大住吉」にも数えられる住吉神社（山口県下関市）に縁がある。1956年、下関市前田地区で住吉神社が所有する土地を借りて砕石事業をスタートした。中村成志社長は「由緒ある土地を切り拓き、その恩恵を受けてきた」という思いから、今でも神社の行事には会社全体で参加するなど、地域とのつながりを大切にしている。

砕石の製造販売を始めた当時は、岩石を砕き、トラックへの積み荷をする作業のほとんどが「人力だった」（中村社長）。時代の変化とともに産業は迅速に発展、機械化が進んだことで砕石作業の生産性も格段に向上した。

同社はゼネコンや地方公共団体との取り組みによる土木工事などをはじめ、トンネルの建設や新幹線の開通工事といった国家的な大型プロジェクトにも携わる。現場での安全を第一に、難工事においてもスムーズな工事施



業界
み・きき

女性を輝かせる

オフィスウェア編

土木建設業界では雇用面で人手不足などの大きな問題を抱える中、住吉工業（山口県下関市）は毎年、安定的に新卒採用者を獲得している。若い子たちの憧れの企業として、女性の就職希望者も増えている。

工で多くの信用と信頼を築いてきた。

2017年度にはグループ全体で売上高101億円を突破し、過去最高を更新した。同社単体でも売上高60億円を上回り、県内トップクラスの土木関連企業として業界をリードする。しかし、90年代のバブル崩壊後は「受注が激減してこれまで何十台と稼働していた工業用重機が全て止まることもあった」。当時について「全社員が一丸となり苦境を切り抜いた。都市型土木へ事業を広げる転換期だった」と話す。

1956年の創立から、良い時も悪い時も経験しながら迎えた60周年。活力を感じる新ユニフォームで、未来に向けてさらなる飛躍を目指す。

女性が活躍できる職場環境作りへ

事務職の女性社員は以前、制服を採用していたが、ここ10年間は私服だった。同社が16年に創業60周年を迎え、技術職でオレンジ色の作業ユニフォームの導

ライトグレーのチェック柄のベストをアクセントにしたことで全体を華やかに見せる。通常業務ではカラーシャツの着用も自由で、TPOに応じて着こなし方もさまざま。

オフィスウェアの導入から約8か月、女性社員からは「規律が生まれた」「仕事に対する姿勢も自然と正しくなった」という声が聞かれる。また、同社は地域と交流する機会も多いため、オフィスウェアがあることで式典の際にも「企業としての統一感が生まれる」などの良い効果へ波及。取引先からは「接客がプロフェッショナルですばらしい」と評価も高く、新しい制服が彼女たちのパフォーマンスにも寄与しているようだ。

今年2月、ユニフォームアパレル10社で作るレディースユニフォーム協議会は「第4回レディースユニフォームベストドレッサーカンパニー賞」を実施。毎年2月4日の「レディースユニフォームの日」に、オフィスウェアを導入する企業の中から最も優れた企業ユニフォームを表彰するもので、今回は同社が金賞を受賞した。



今春のリクルート広告もオレンジ色で統一



技術職の女性も活躍している



中村成志社長



カーディガンを着用するなど各自で温度調整をする



ひきしまった印象のジャケット着用スタイル



指定の白ブラウス以外にも各自自由に着こなし



ワントーンな制服を明るく見せるチェックのベスト



作業ユニフォームの光るシルバーのロゴ

DATA

住吉グループ 住吉工業株式会社
 山口県下関市長府扇町1-23
 創業 1956年
 従業員数 110名
 事業内容 総合建設事業(土木建設事業
 造成工事、ダム工事、トンネル
 工事、道路工事、水道工事など)



「まさか金賞をいただくとは思わなかった。本當にうれしい」と中村社長。「取引のある先々で話題にしている」と思わぬ効果を実感しているとともに「土木建築業のイメージを変える機会にもなる。女性が活躍できる職場環境作りを進めたい」と、女性の社会進出に一段と力を入れる。

印象に残るオレンジ色

16年に刷新した作業ユニフォームについても「どこの現場にも住吉さんが居るね」と言われるほど、オレンジ色の印象が定着してきた。「今までとは全く違うイメージにした」と(中村社長)という思いを込めたカラーは、同社のトレードマークになりつつある。

夏には業界としてもいち早く、電動ファン付きウェアを導入するなど、「天候に左右される厳しい現場だからこそ、常に新しい物を取り入れ、作業環境を整えている」。ユニフォームが全社員の意識や技術を高める役割を担っている。

オフィスウェアの選定は「すべて女性社員たちに任じた」ことでウェアのデザインから着心地などの機能面まで、女性社員のこだわりがかなり反映されている。地元のユニフォーム販売代理店の原田(山口県防府市)の協力で審議を重ねながら、昨年11月頃に女性社員のオフィスウェアを導入した。

新ウェアには落ち着いた印象の黒色ブレザータイプのジャケットに同色のAラインスカートで合わせる。どちらもニット素材で動きやすく、パンツタイプもそろえた。シックになりすぎないように、